

JICA グローバル・アジェンダ
「水産ブルーエコノミー振興」勉強会の報告

2024 年 1 月 21 日
JICA 経済開発部

1. 勉強会実施の目的

(1) JICA クラスタ事業戦略「水産ブルーエコノミー振興」の紹介と意見交換

- JICA 経済開発部によるクラスタ事業戦略の紹介
- 開発コンサルタントによる「水産ブルーエコノミー振興」の具体例と今後の展開に向けた提言

(2) 「JICA 水産ツールボックス（案）」の紹介と意見交換

- JICA 水産ツールボックス構築案（枠組み等）の紹介
- 想定利用シーン等の紹介

2. 参加者数：

合計 80 名程度（JICA 経済開発部、開発コンサルタント、大学関係者、JICA 海外協力隊等）

3. 日時・場所

2024 年 12 月 24 日（火）15 時～17 時、マリノフォーラム 21 会議室及びオンライン

4. プログラム

時間	スピーカー	内容
15 :00 ~ 15 :05	JICA 経済開発部 次長 大島 歩	開催挨拶
15 :05 ~ 15 :20	JICA 経済開発部 Jr. 専門員 石井 潤	JICA クラスタ事業戦略「水産ブルーエコノミー振興」の紹介
15 :20 ~ 15 :35	アイ・シー・ネット(株) 世古 明也氏	受託案件の事例を交えた「水産ブルーエコノミー振興」の具体例と今後の展開に向けた提言
15 :35 ~ 15 :50	インテムコンサルティン グ(株) 越後学氏	
15 :50 ~ 16 :05	OAFIC(株) 佐藤 正志 氏	

16 :05 ~ 16 :15	JICA 経済開発部 専門員 杉山 俊士	「JICA 水産ツールボックス（仮称）」案 の説明
16 :15 ~ 16 :50	全体	意見交換・質疑応答
16 :50 ~ 16 :55	JICA 経済開発部 課長 浅岡 真紀子	継続的な意見交換会の実施に向けた議 題提案
16 :55 ~ 17 :00	JICA 経済開発部 課長 浅岡 真紀子	閉会挨拶

(1) 結果

全体的に時間が押したものの、プログラム通りに JICA、開発コンサル
タントからの発表を行ったのち、参加者と意見交換を行った。質疑
応答の要点は以下の通り。

質問	回答（JICA より）
Q1. ツールボックスは事例集ではないとのことだが、「途上国に应用可能な知恵と工夫」の翻訳（抽出）作業や、抽出したツールのツールボックスへの掲載可否の判断、や更新は、実際の作業含め誰が行うのか。	<p>A.1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽出作業は各協力事業の専門家に対応いただきたい。業務完了報告書にある「教訓」に置き換えることを一案として検討。 ・そもそもパイロット事業などの技プロの活動において、対象サイトに限定するのではなく、他地域に普及可能な活動を実施する必要がある。ツールボックスの拡充が技プロ実施の目的ではないものの、他地域でも応用可能な成果発現を念頭に活動を計画し実施していただきたい。 ・なお、ツールボックスの掲載や更新作業は JICA 本部が行う。 ・現場での事例を JICA 側で全て拾えている訳ではないため

	<p>実施者側からも事例の共有をお願いしたい。現在 JICA で MF21 への委託を通じ、ツールボックスを設計中（有識者による技術委員会も立ち上げている）。今年度中にはツールボックスのイメージを共有できる見込。</p>
<p>Q2. ツールボックスの使い方や入手経路はどのように想定しているか。</p>	<p>A2.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術協力プロジェクトにおける現地での活動（ワークショップ等）や本邦研修における補助教材としての活用を想定している。 ・ 入手経路は WEB での公開を想定している。
<p>Q3. SPC（Secretariat of the Pacific Community）がバヌアツ国「豊かな前浜プロジェクト」の事例等を使いながらツールボックスを作成しようとしていた。JICA 側にも連携を打診したが、その後の対応状況は如何。また他ドナーが作成するツールボックスはレビューしているのか。</p>	<p>A3.SPC との連携について、JICA 側でペンディングとなっていた（現在、SPC へ再度確認中）。</p> <p>FAO のツールボックスなど他案件のツールボックスはレビューしている。</p>
<p>Q4. ツールボックスの現案は技術協力をベースに組み立てることを想定しているが、他のスキーム（円借款や無償）の知見、他ドナーの優良な取組みを含める想定はあるか。ブルーエコノミーの対応課題は現場レベルだけで対応できるものではなく政策的な対応も必要。ツールボックスも現場と政策の両面からツールを蓄積する必要があるのではないか。</p>	<p>A4.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ツールボックスは政策方針が決定した後、現場での水産ブルーエコノミー振興にかかるとしての選択肢を与えるもの。政策面での働きかけには別の道具（ポリシーブリーフなど）が必要。 ・ ツールボックスには技協以外にも他のスキームや他ドナーの取組み（無償など）も含まれる。

<p>Q5. クラスタ事業戦略と今後の案件形成について。今後の案件形成において水産ブルーエコノミー振興の要素がないと形成されないのか。</p>	<p>A5. JICA としてクラスタ事業戦略に合致する案件を積極的に形成していきたいが、開発ニーズは国ごとに異なるため、水産ブルーエコノミー振興の要素がないと全く形成できないわけではない。</p>
---	---

5. 総括

(1) クラスタ事業戦略への理解促進

クラスタ事業戦略や開発コンサルタントからの発表を通して、目指すべき水産ブルーエコノミー振興について JICA 事業関係者間での共通認識の醸成を図った。意見交換の時間が十分に取れなかったこともあり、引き続き関係者間で水産ブルーエコノミー振興の具体化や、協力事業の形成や実施方法等について、協議を続けていく。

(2) JICA 水産ツールボックスの周知及び理解促進

クラスタ事業戦略の推進策として JICA 水産ツールボックスを紹介した。説明及び質疑応答を通して、水産ツールボックスが事例集ではなく、水産ブルーエコノミー振興にかかる活動に選択肢を与える途上国でも応用可能な知恵と工夫を抽出したツール集という点で共通理解が得られたと考えている。また、水産ツールボックスのツール作成や活用方法について多く質疑があったことから、水産ツールボックスへの関心の高さがうかがえた。今年度中に設計、来年度から具体的な構築を予定。今後も水産ツールボックスの進捗を関係者に共有していく。

6. 今後について

JICA 経済開発部では本勉強会を機に、JICA 事業関係者間での意見交換の場を定期的に設けていきたい。また水産分野の国際協力人材のスキルアップやプロジェクト間の横の繋がり強化を目的に勉強会を開催していきたい。直近のスケジュールは以下を想定している。

(1) 「技協でお勧めの隠し味~PDM との向き合い方~ (仮称)」

- 日程：2月18日(火) 17時~18時30分 ※日本時間
- 場所：一般社団法人 マリノフォーラム 21 会議室 / オンライン

- 対象者：JICA 事業関係者、マリノフォーラム 21 会員企業など
- 内容：「成果・プロジェクト目標・上位目標を意識したプロジェクト活動は何か。PDM への向き合い方」。尚、本意見交換会はマリノフォーラム 21 様が定期開催しているサロンの場を活用させていただく予定です。

(2) 海藻養殖情報交換会

- 日程：2月26日（水）10時～12時30分 ※日本時間
- 場所：JICA 経済開発部及びオンライン
- 対象者：海藻養殖に関連する JICA 事業関係者
- 内容：JICA が実施中の海藻養殖に関連する 4 つの事業についてその概要や現在の課題、対応策について意見交換を行う。

7. 問合せ先・事後アンケート

本勉強会の内容や今後の取組みについて、ご意見・ご要望等がありましたら、以下のフォームより記入をお願いします。その他、問い合わせ事項等ございましたら、以下の窓口までご連絡お願い致します。

- ・ フォーム：<https://forms.office.com/r/KrcGT5qW1t>
- ・ 問合せ窓口：JICA 経済開発部 石井（Ishii.Jun@jica.go.jp）

以上